

徳川家ゆかりの資料展示収蔵施設整備事業について

1 現在の状況

- 徳川家ゆかりの資料展示収蔵施設については、大河ドラマ館等の活用が施設規模や浜松城天守を望む景観の観点から難しいことが明らかとなり、新たな敷地での施設建設を検討してきた。
- 検討委員会では、資料の文化的価値を高く評価した上で、その実現には大きな財政負担を伴うことから、市民や議会に十分説明し賛同を得た上で事業を進めるよう意見をいただいた。
- こうしたことから、令和 8 年 2 月に市民等を対象としたタウンミーティングを計 3 回実施するとともに、併せて広聴モニターアンケートを実施し、徳川家ゆかりの資料展示収蔵施設に対する意見等を伺った。

2 タウンミーティング

(1) 日時等

日時	参加者	参加人数(申込人数)
令和 8 年 2 月 12 日(木)午後 4 時～午後 5 時	歴史文化・観光・教育分野関係者	16 人(17 人)
令和 8 年 2 月 20 日(金)午後 6 時～午後 7 時	市民	19 人(20 人)
令和 8 年 2 月 28 日(土)午後 2 時～午後 3 時	市民	21 人(26 人)
計		56 人(63 人)

(2) 実施内容

- 施設概要のイメージを掴んでいただく比較検討材料として、令和 7 年度に実施した整備候補地調査による 3 か所の候補地を例にして、以下の項目立てで進行した。

① 説明

ア タウンミーティング開催の趣旨

- 施設整備の検討の参考とするための多様な意見の聴取

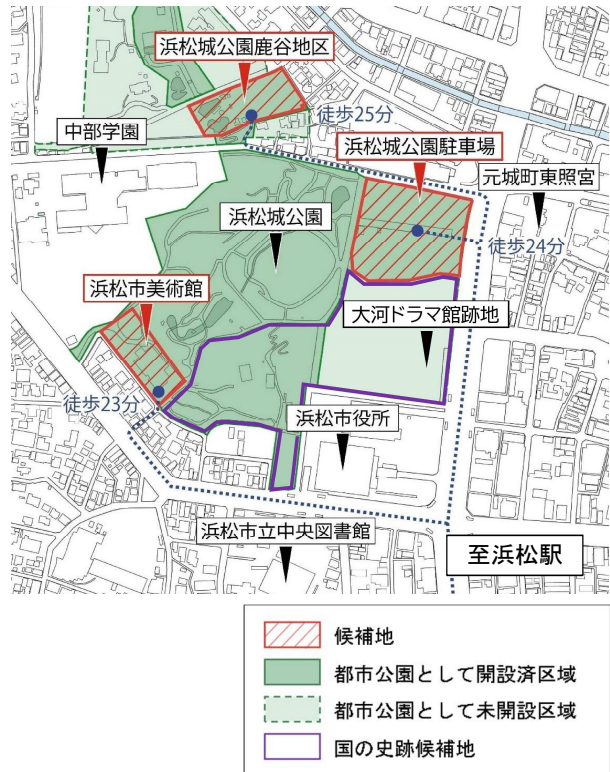
イ 検討に至った経緯

- 大河ドラマ「どうする家康」を契機に、貴重な資料の受け入れの検討を開始

ウ 徳川記念財団及び徳川宗家の主な所蔵資料

- 約 2 万点におよぶ我が国を代表する歴史的な資料（重要文化財や重要美術品など高い文化的価値）

【整備候補地（3 か所）】



エ 整備イメージ

- ・整備候補地 3 か所を例示した施設ゾーニングや利点、課題
- ・来館者数、経済波及効果、社会的効果
- ・他都市の事例

②意見聴取

- ・当日現地での意見に加え、オンラインフォームからも意見を受付

(3) 結果

①意見総括

- ・財団所蔵資料の価値を評価し、展示収蔵施設の整備を期待する肯定的な意見が多数あった。
- ・歴史や資料に触れる機会の増加や浜松市への愛着醸成、観光誘客効果などを期待する声が挙げられた。
- ・展示について、浜松と家康公との関わりを伝える展示や体験型の展示、他施設との差別化などを求める声があった。
- ・整備候補地の例に対して、浜松城周辺が市内回遊性の観点から望ましいとする意見が多数を占めた一方で、駐車場確保と交通アクセスの検討を求める意見がすべての候補地案共通の課題として挙げられた。
- ・美術館の改修案が既存ストックの活用と整備スケジュールの点から合理的であるとして、総じて推す声が多かった。
- ・議論に当たって具体的な運営方法や運営体制、事業財源などの情報が必要であるとの指摘があった。

②意見詳細

ア 施設整備について

- ・財団所蔵資料の価値を評価する声が大半を占め、浜松市への愛着の醸成や学びの場の創出、観光誘客効果への期待、本物の資料を見せることの重要性を述べる意見など、整備を期待する肯定的な意見が多数あった。
- ・博物館、美術館とのつながりや機能の相互補完、各館連携による巡回展の開催などの提案があった。
- ・具体的な運営方法や運営体制、収支予測、資料の権利・契約、事業費の財源などの情報が不足しているとの声もあった。

イ 資料・展示方法について

- ・浜松と家康公との関わりを伝える展示や体験型の展示、インバウンドを見据えた展示を求める声があった。
- ・全国各地にある徳川家に関する施設との差別化が必要であるという意見があった。
- ・財団所蔵資料と市の関係性の希薄さや、それに対する税金投入の疑義などが指摘された。

ウ 整備候補地について

- ・家康公と浜松城の関係性やまちなかへの回遊性から、浜松城の周辺が望ましいとする意見が多数を占め、本施設を拠点とした市内関連スポットへの波及を期待する声があった。
- ・例示した 3 つの候補地について、整備コストの点から美術館改修案を推す声や、価値ある資料を適切に保管・展示するため新設でしっかりしたものを求める声、展示と収蔵を別施設とする方法の提案などがあった。

- ・浜松城公園駐車場への新設案について、視認性の高さを評価する一方で、現状でも休日は駐車場が混雑する中、駐車場不足を心配する声があった。
- ・浜松城公園鹿谷地区への新設案について、周囲の施設や自然を好環境と捉える声があった一方で、かつては谷地であったことによる地盤の悪さや既存施設の機能代替を懸念する声があった。
- ・美術館の改修案については、既存ストックの活用に理解を示す人が多く、整備スケジュールも含めて合理的な考え方であるとの声があった一方で、建物設備の老朽化や展示空間が手狭であることを懸念する声もあった。しかし、他2案が有する課題と比較して、好意的に受け止められたほか、将来的に建物を新設する段階案の提案もあった。
- ・いずれの案においても駐車場の確保や交通アクセスの検討を求める意見があった。

エ 施設規模について

- ・特段意見はなかった。

3 広聴モニターアンケート

(1)実施内容

①調査対象

令和7年度広聴モニター 220人

※住民基本台帳から18歳以上の方を無作為抽出し、広聴モニター登録に承諾いただいた方。

②調査方法

質問紙郵送法及びWeb回答

③調査期間

令和8年2月3日(火)～2月17日(火)

④有効回答数(有効回答率)

196人(89.1%)

<18歳～34歳：49人、35歳～49歳：61人、50歳～64歳：46人、65歳～79歳：40人>

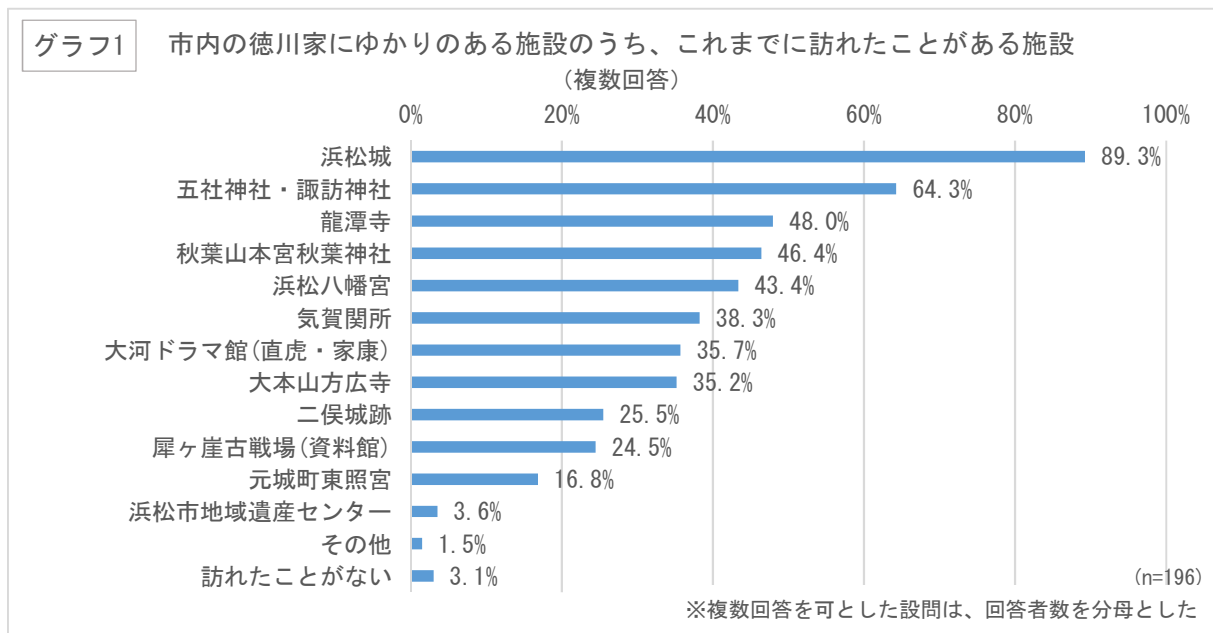
⑤質問内容

- ・市内の徳川家にゆかりのある施設のうち、これまでに訪れたことがある施設及び訪問理由
- ・市外の徳川家にゆかりのある施設のうち、これまでに訪れたことがある施設、訪問理由及び周辺観光を含む滞在時間
- ・市が検討している徳川家ゆかりの資料展示収蔵施設に期待すること など

(2) 結果

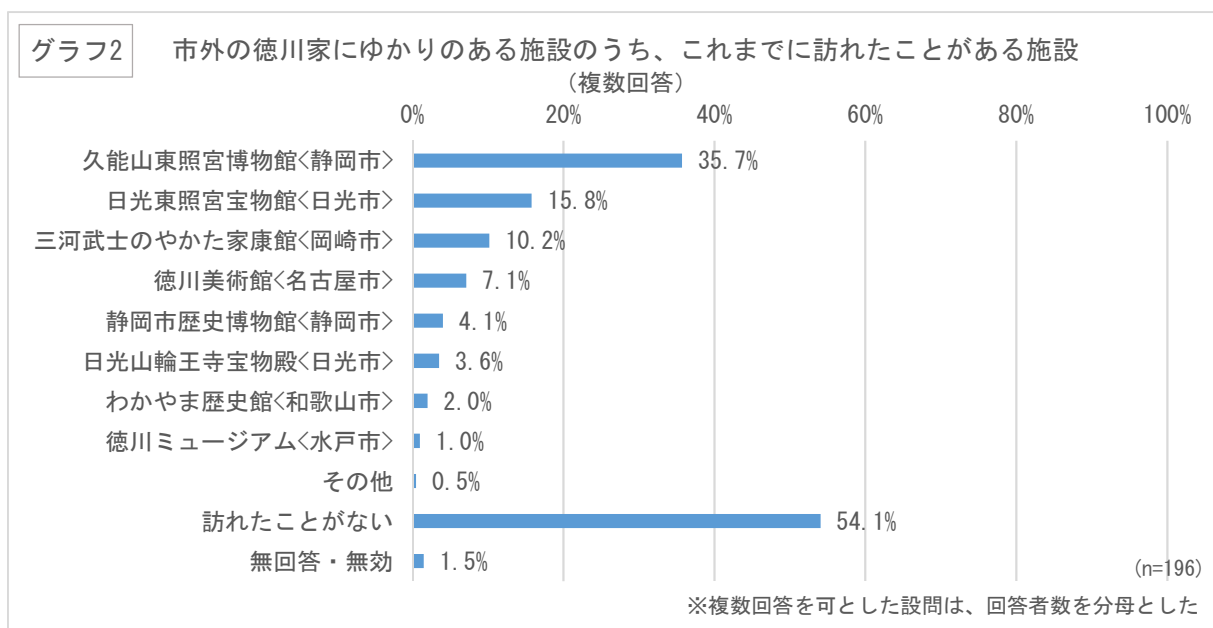
① 市内施設について

- ・「市内の徳川家にゆかりのある施設」を訪れたことがある人が9割を超え、場所としては浜松城（89.3%）、五社神社・諏訪神社（64.3%）が特に多い。
- ・訪れた理由は「観光スポットとして有名だったから」（48.4%）、「家族や友人に誘われたから」（39.5%）、「歴史資料や展示物を直接見たかったから」（32.1%）の順に多い。



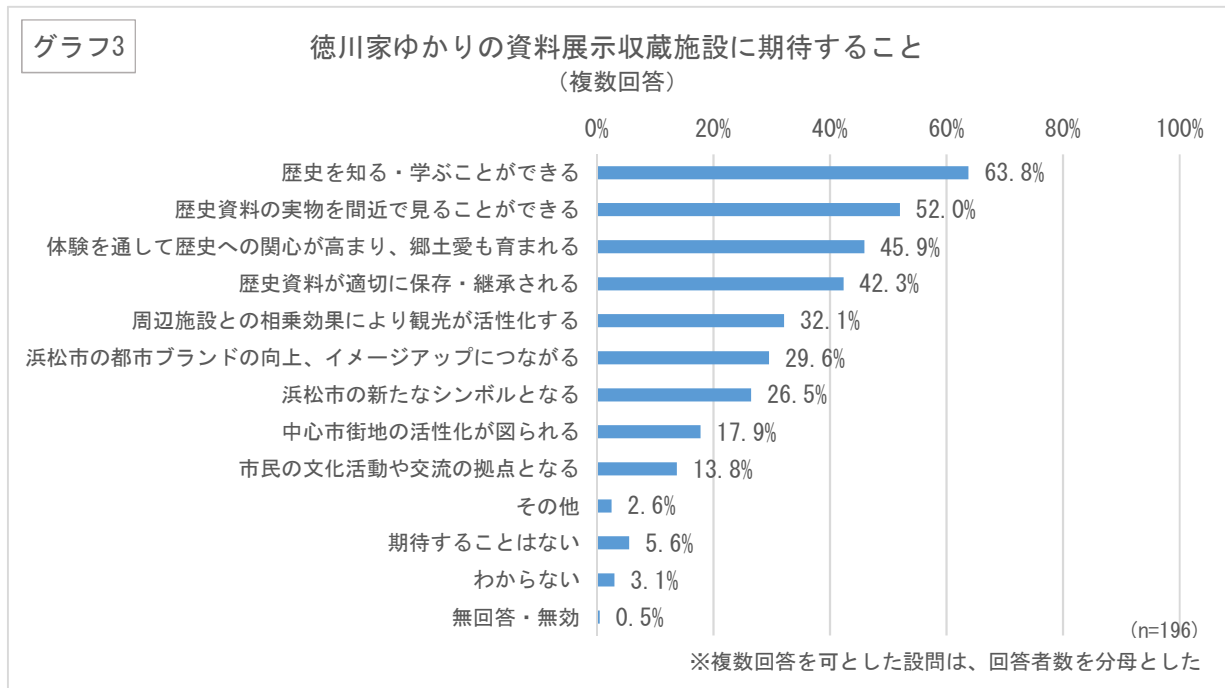
② 市外施設について

- ・「市外の徳川家にゆかりのある施設」を訪れたことがある人が4割を超え、場所としては久能山東照宮博物館（35.7%）や日光東照宮宝物館（15.8%）が多い。
- ・訪れたことがある人の約5割は、周辺施設の観光を含めて当該都市に半日以上滞在している。



③徳川家ゆかりの資料展示収蔵施設に期待することについて

- ・「期待することはない」と回答した人は 5.6%にとどまり、何らかの期待を寄せている人が 9 割を超えている。
- ・期待することは「歴史を知る・学ぶことができる」(63.8%)、「歴史資料の実物を間近で見ることができる」(52.0%)、「体験を通して歴史への関心が高まり、郷土愛も育まれる」(45.9%)、「歴史資料が適切に保存・継承される」(42.3%) の順に多い。



④考察

- ・ 9 割を超える多くの市民が市内の徳川家ゆかりの施設を訪れたことがあり、新たな展示収蔵施設について期待を寄せている人も 9 割を超えていることから、施設整備に対して肯定的な考えを持つ人が多い。
- ・ 歴史を知る、学ぶ場としての期待が高いことから、若年層における教育・学習や郷土愛の醸成という観点でも大きな効果が期待できる。
- ・ 歴史資料が適切に保存・継承されることへの期待が多いことから、展示だけでなく貴重な資料を本市で収蔵することへの意義の理解が一定程度得られている。
- ・ 市民の約 9 割は浜松城を訪れたことがあり、浜松城公園内に展示収蔵施設を整備することで、浜松城を起点とした徳川家ゆかりの観光ルートが充実し回遊性の高いまちづくりに資すると考えられる。

4 今後の方向性

①整備に向けた検討の継続

- ・タウンミーティング、広聴モニターアンケート共に、多くの方が施設整備に期待を寄せていることから、引き続き整備に向けて検討を進める。

②整備検討の方向性

- ・基本計画で定めた基本方針とタウンミーティング等の意見は整合しており、計画どおり展示・収蔵に加えて体験や学習・研究の場の機能も備えた、幅広い世代が利用可能な施設を念頭に置いて検討を進める。

③浜松城公園内での候補地検討

- ・整備候補地については、タウンミーティングにおいて、家康公と浜松城の関係性から浜松城公園一帯での整備に共感を得るとともに、まちなかの回遊性、既存の観光施設との連携において有効であるとの意見を踏まえ、整備候補地調査における浜松城公園内の3か所を候補地とする。
- ・総じて美術館の改修案に対する市民の理解が多く、整備スケジュールにおいても合理的であるとの意見を得たことから、美術館の改修案を前提に検討を進める。

④財団との調整

- ・徳川記念財団と調整が必要な事項について、整備候補地と併せて調整を進める。